

# 大樹町で小型人工衛星製造

## 「農業振興に役立てたい」

### 来月末ベンチャー企業設立 道工大の佐鳥助教授ら説明

【大樹】大樹町で8月末、小型人工衛星を製造するベンチャー企業を立ち上げる道大の佐鳥新・助教授らは22日、町内の経済センターで、宇田ヒメズ・ミニセミナーを開いた。農業分野で衛星を活用し、十勝の基幹産業の振興に役立てるなど、企業の設立理念を説明した。

(浅井文人)

## 寿命3年、事業費10億円

セミナーは、佐鳥助教授が主催。JA大樹町、授が理事長を務めるNP町商工会、十勝支庁などO法人宇宙空間産業研究から17人が参加した。



小型衛星のメリットを語る佐鳥助教授(右)と福島副理事長

佐鳥助教授は、農作物の生育状況などを調べる衛星の概要を説明。「高度567キロの軌道に重さ50キロの人工衛星を飛ばし、道内を通過する際、1日1回撮影。読み取ったデータを解析し、翌朝には農業団体にファックスやメールで配信する。衛星の寿命は3年で、事業費は10億円」と話した。同法人の福島充副理事長は、独自に開発した衛星に載せる特殊センサーについて紹介。「衛星から撮影するだけで、作物のたんばく含量が少ないとか、成長しすぎているなど、作柄評価に必要な情報を得られる。安全な

食糧生産を支えるコア技術として事業を推進すれば、十勝圏の農作物に対し品質の信頼性が高められ、付加価値を付けられ、知名度も向上する」と利点を強調した。また、「2号機の衛星は漁業への活用を目指す。企業の運営は、衛星開発のほか、このセンサーの技術を活用して民間産業への販用を図り、手堅い経済基盤を築きたい」と述べた。